

# 中学1年生社会科の授業で行った共同研究から見てきたこと

—「主体的・対話的で深い学び」を追求する授業の試みを通して—

法政大学キャリアデザイン学部兼任講師 遠藤 裕子

## 1. はじめに

2018年12月に、Universal Design for Learning(学びのユニバーサルデザイン 以下UDL)の研究会で、法政大学中学高等学校(社会科)の石川秀和教諭(以下、授業者)にお会いした。その際に『主体的・対話的で深い学び』を意識して、グループワークなどを取り入れてはみるが、うまくいっているとは言い難い。時にはグループワークをやりたくないという生徒も出てくる。何とかしたいという思いで研究会などに参加している。」とお聞きして、授業づくりの共同研究を行うことを申し出たところ、快諾していただいた。

筆者にとっては、2018年度法政大学教職課程年報に掲載された小論の「これからの課題」としての研究となる。筆者は教育心理学の授業で、学生が主体的に学ぶことを目標として、ペアワークやグループワークを取り入れ、対話的に進める授業を展開している。学生のリアクションペーパーや授業改善アンケートへの記載から、学生の主体的な学びのために一定の効果があったと考察し、本年度も継続した。また、教育心理学の授業では教育方法を取り扱うが、理論として学ぶだけでなく、さまざまな教育方法を用いて授業を行い、学生が体験しながら学べるように工夫している。授業者と相談の上、授業者のこれまでの実践の積み上げに依拠しながら、筆者が教育方法の提案を行い、共同して授業づくりを進めること、生徒に教育方法を説明する役割は筆者が担い、一部参与観察を取り入れることとした。

授業者の思いをもう少し詳しく記載しておきたい。授業者は教師になって15年目である。教師が講義を行い、教師との対話があるものの、基本的に生徒は話を聴くことが中心の一斉授業になることが多い。生徒が受け身になっている状態であることへの悩みが強くあり、数年前から、アクティブラーニングを盛んにしている学校の授業研究に参加したり、「共同的な学び」の研究者の講演を聴いたりしたが、今ひとつしっくりこなかった。そんな中、教育相談の研修会に参加した際、講師の話からUDLを知り、その後、UDLを取り入れた実践に出会った。それらの実践から、教室には多様な生徒が存在していることや生徒一人ひとりを見ることの大切さを改めて認識したこと、そして複数の教材を用意するなど、ちょっとした工夫で生徒が学びやすくなることを発見することができたが、未だ自分の授業でできることを模索している状態とのことである。

## 2. 研究の進め方

授業対象は法政大学中学校1年生4クラスである。教科は社会科で、前半は地理、後半は歴史を取り扱う。授業者の授業スタイルを基本に、筆者が提案する教育方法を取り入れた授業を10回程度行い、授業記録、生徒による振り返りシートへの記述、授業者との対話による振り返りを基に、特に授業者の課題である「生徒が主体的・対話的に深く学ぶこと」に着目して検討を行う。

共同研究を行うにあたっては、筆者が「共同研究のお願い」を作成し、授業者が学校、当該学年・教科に提起して承諾を得た。

## 3. 授業記録と考察

### 3-① 1回目 4月10日 オリエンテーション

4月6日が入学式、授業者が1回目の授業でオリエンテーションを行い、本時は2回目の授業であった。筆者が50分間を担当した。自己紹介を行い、共同研究について「授業者と一緒に『主体的・対話的で深い学び』をテーマに、よりよい授業づくりの研究を行っている。1年間で10回くらい授業にお邪魔する。生徒の皆さんには振り返りシート記入などで協力をお願いしたい。」という旨を説明した。さらに、研究の内容とし

て、ラーニングピラミッド（資料 1・図 1）を示しながら、積極的な学習から得られる「定着率からみた学習効果」について解説し、授業にグループワークや自ら体験すること、人に教えること（伝えること）を取り入れると話した。また、Multiple Intelligences 理論（以下、MI 理論）とグループワークの際に活用することを説明して、MI のチェックシートに取り組んでもらった。MI 理論については、遠藤（2018）を参照していただきたい。

入学式から 5 日しか経っておらず、授業開始から 4 日目で、教室は緊張感で空気が張りつめているような雰囲気であった。授業始めに軽いストレッチとディープブレスを行って、雰囲気を和らげた。解説と MI のチェックシート記入でそれぞれ 20 分ほどを要したが、よく集中できていた。

### 3-② 2 回目 4 月 16 日 グループワーク 1 回目

筆者が始めの 15 分を担当し、グループワークの際、安心して意見を述べあえるようにするために取り入れる「一巡法」（資料 2）について説明した。生徒は、授業者が予め行った「The True Cost」の授業でワークシートに「自分の意見」を記入しており、それを題材にして意見交流を行った。グループについては、出席番号順（男女混合名簿）を基に MI の結果を取り入れ、「学び方の特徴」が片寄らないようにマイナーチェンジして組んだ 4 人のグループを提示した。

入学してから 1 週間と数日が経過して、まだ緊張が残っているが、1 回目の授業よりは和らいだ印象であった。1 回目と同様、授業始めに軽いストレッチとディープブレスを行った。グループワークについては、どのグループもスムーズに活動を開始しているように見受けられた。授業者側から提示したグループに抵抗を示すことはなかったが、男女混合名簿による座席表を用いたため、「名簿上の男女」の片寄りが生じ、「男女のバランスを考えてほしい」という声が複数の生徒から聞かれた。

### 3-③ 3 回目 5 月 8 日 MI のフィードバック

筆者が 50 分間を担当した。MI のチェックシートを基に、「学び方の特徴」を示す資料を作成して個々に配布し、フィードバックを行い、感想などを書いてもらった。授業づくりと直接関係する内容ではないので、生徒の感想などの記述は省略する。

入学から 1 カ月が経過しており、クラスメイトとの関係も少しずつできて、幾分、雰囲気が和らいだ感じを受けた。10 連休明けの授業であったが、特に疲れた様子は見られず、集中して話を聴いているのが伝わってきた。

### 3-④ 4 回目 6 月 5 日

前半は筆者が担当して、20 分程で「聴く」をテーマにカクテルパーティ効果（資料 3）を用いた演習を行った。後半は授業者が担当して、グループワークで扱う題材の VTR（地球への課題 15 分間）を観て、各自がワークシートに取り組んだ。

事前に、授業者より「前の週に、炎天下で陸上競技大会が実施され、その後、疲れや体調不良を訴える生徒もいる。」とのことを聞いていた。授業前の休み時間に「保健室に行きたい」という生徒が数名いて、少し落ち着かない状態で授業が始まった。保健室に行った生徒は授業が始まってすぐに教室に戻ってきた。授業の始めに、授業者が「体調が悪かったら対応するから、個別に言ってほしい。」と話したところ、教室の空気が落ち着いた感じになった。授業に入ると、観よう、聴こうという意識が強く伝わってきた。なお、4 クラス中、ひとクラスはインフルエンザで学級閉鎖となっていたため、6 月 11 日に「一巡法」の説明と 1 回目のグループワークのみを行った。カクテルパーティ効果を用いた演習は行っていない。

### 3-⑤ 5 回目 6 月 18 日 2 回目のグループワーク

6 月 11 日の授業からの流れで、「地球への課題」を題材に、「一巡法」を用いてグループワークを行った。グループワークが概ね良好に行えたので、次の段階として考えている全体での交流を見据えて、1 か 2 グループに、前に出て発表してもらった。グループはクラスで席替えした座席表（男女のバランスを考慮）を用いて 4 人のグループを作り提示した。全体での発表に対し、フロアから自然な形で質問が出て、発表者とのやり取りが行われる場面があった。

入学式から 2 ヶ月が経過し、学校生活にもすっかり慣れた感じが伝わってくる。休み時間に、筆者に親し

げに話しかけてくる生徒も多くなった。授業者が「授業始まりにけじめをつけるように」と注意を促す場面もみられた。にぎやかな休み時間から気持ちの切り替えをするために、ディープブレスを丁寧に行い、教室の空気を落ち着かせてから授業を開始した。

### 3-⑥ 6回目 7月17日 1学期のまとめの授業

授業終わり 15分程を筆者が担当し、ふり返りアンケートに記入をしてもらった。どのクラスも落ち着いた雰囲気、話を聴き、アンケートに協力してくれた。

### 3-⑦ 7回目 10月2日 1学期ふり返りアンケートのフィードバック

筆者が授業始め 20分程を担当し、7月17日に行ったふり返りアンケートの記述部分を全員分（氏名は省略）まとめたプリントを配布して、コメントを入れながらフィードバックを行った。次にグループワークを發展させる旨の話をして、「一巡法レベルアップバージョン」（資料4）について説明した。

9月に文化祭が入ったためにフィードバックまで日にちが空いた。文化祭の取り組みを通じて課題が生じる場面もあったようであるが、教室の雰囲気は穏やかであった。プリントに全員の意見が載せてあるためと思われるが、とてもよく読んでいるのが伝わってきた。ふり返りアンケートのまとめは資料5に掲載する。

### 3-⑧ 8回目 10月8日 3回目のグループワーク

前半、授業者が「中国社会の事情を知る」というテーマで授業を行い、生徒はワークシートに自分の意見をまとめた。後半、「一巡法レベルアップバージョン」を用いて、グループワークを行った。筆者はTA(teaching assistant)の役割を担った。ファシリテーターを立てるため、グループの人数は5名にした。

クラスの雰囲気が落ち着いてきているのを感じる。ちょっとした声掛けで、教室の空気が休み時間から授業開始へと切り替わるのがわかる。机をグループの形にすることやグループワークを行うことに慣れてきている様子が見られた。この授業で初めて「先生の説明を少なくする。生徒の動きを見守る」という授業者側の目標を生徒に語った。

### 3-⑨ 9回目 10月29日 改めてここまでの授業のふり返り

中間テストで間が空いたため、授業始めに、筆者が15分程で前回(10月8日)の授業のふり返りを行い、改めて「一巡法レベルアップバージョン」の説明を行った。

### 3-⑩ 10回目 11月9日(授業参観日) 4回目のグループワーク

授業の冒頭で、授業者が「日本列島の石器時代」についての授業を行い、生徒はワークシートに設問に対する自分の考えを書いた。その後、グループワークで意見の交流を行い、1,2のグループが発表を行った。全体での発表の前に、筆者が5分程で「プレゼンテーションのコツ」について話した。

4クラスとも授業参観での授業となった。参観の保護者は20名程であったが、生徒には思ったよりも緊張はみられず、楽しげにグループワークを行っていた。授業後のふり返りシートに「保護者が大勢いる前で発表した人はすごい」と書いている生徒がいた。

この日の授業の後、11月12日に、授業者が全クラスで全グループの発表(プレゼンテーションと位置づけ)を行った。発表は、グループのメンバー全員が行ってもよいし、代表が行ってもよいとしてあり、この時点では、全員がプレゼンテーションを経験したわけではない。

### 3-⑪ 11回目 12月10日 「一巡法レベルアップバージョン」のふり返り

11月12日の授業者による授業の後、生徒にふり返りシートを書いてもらった。この日の授業の冒頭で、筆者が生徒の記述をまとめたプリントを配布し、フィードバックを行った。また、「プレゼンテーションのコツ」について確認を行った。

12月13日に「Tokyo working」と題して、都内にある施設(指定された中から選ぶ)をグループで巡り、事後学習として、グループごとに発表する行事が行われることになっていた。グループごとの発表は全員が行うことになっており、ここで全員がプレゼンテーションを経験することになるため、本時は「Tokyo working」の事前学習を兼ねた授業として位置づけた。「Tokyo working」が、4月から段階を追って取り組

んできたグループワークの一応の完成形となった。生徒の「一巡法レベルアップバージョン」と「プレゼンテーション」のふり返しプリントの記述は資料 6 に掲載する。

### 3-⑫ 12 回目 1 月 11 日 1 年間のまとめの授業についての説明

前半 20 分程の時間で、筆者が改めて「4 月 10 日授業オリエンテーション時の話」を確認し、「1 年間のまとめの授業」として、グループで、指定されたテーマからひとつを選び、各自が調べ学習をした後に、グループワークとプレゼンテーションを行うことを説明した。

クラスの雰囲気は落ち着いて、休み時間からの切り替えも早い。少しの声掛けで集中することができる。筆者自身は生徒に自然に受け入れられている感覚を覚えた。ほぼ 1 年が経過して、「中学生の顔」になっていると感じる。

「1 年間のまとめの授業」は、プレゼンテーションまで本時を入れて 4 回の計画で行うが、本稿の締め切り後となるため、授業記録の記載はここまでとなる。

## 4. 生徒によるふり返しシートの記述と考察（資料 5 および 6 を参照）

生徒が記入したふり返しシートは 4 クラス 140 人分ある。ここでは、無作為に選んだひとクラス 35 人分の記述を基に考察を行う。

### ① 誰もが安心して発言できるように配慮する必要性

グループワークが得意ではないと思われる生徒の声を拾ってみる。（番号は資料 5 による）

- 1-② 一巡法により、考えたことをあまり発表しない私でも、班の人と共有することができて、良かったです。
- 1-⑫（前略）また、私は普段積極的に発言する方ではないが、授業ほど大人数の場ではなかったので、意見をいいやすかった。
- 2-② みんなよく聞いてくれてはいたが、逆に 1 人に注目され、話すのが得意ではない私は、緊張してしまった。聞くのはまわりが静かなのでやりやすかったし、メモも取りやすかった。「話す」のは少しやりにくかったけど、「聴く」のは、やりやすかった。

授業者の思いとして語られた「グループワークをやりたくないという生徒が出てくる」（はじめにを参照）ということから、グループワークの開始時に、生徒に「聴きあう」ということを丁寧に語り、「一巡法」を取り入れたことで、苦手意識を和らげることができたのではないかと考える。

### ② 段階を追って話し合いを発展させていくことの必要性

一巡法では「聴きあうこと」を目的にしているため、意見の交流は行わないが、回数を重ねていくと、自然に意見の交流を行うようになってきたり、意見交流をしたいという思いが出てきたりするようになる。生徒の声を拾ってみる。

- 1-⑰ みんなが意見をしっかり聞いて、それに対する意見をしっかり言ってくれたのでよかった。
- 1-⑱ 他のみんなと意見が違うので、聞いていて楽しかった。
- 1-⑲ 普通に話し合いをするとすると、個人で勝手にしゃべりだし、話し合いが進まないことが多いが、一巡法では他の人の意見をしっかり聞こうとするため、きちんと手を挙げて発言することが出来、比較的話し合いが上手く進むと思います。
- 3-① 他の人が言った意見に対して、意見できないことがもどかしかった。
- 4-② 相手の意見をきくときは、何か、その意見についてのことを押さえるのが難しく感じた。
- 4-③ 他の人が意見を言っているときに、自分の意見を言ってしまうがちなところを、気をつけたい。

「意見交流を行いたい」という思いが見えたタイミングで、次の段階に進みたいが、グループワークのスタート時と同様、グループワークが苦手な生徒の存在を忘れず、安心できる状態で意見交流が行えるように配慮していきたい。ここで「一巡法レベルアップバージョン」を取り入れたことが有効であったと考える。

### ③まとめ

(個人差はあるが)生徒のアンケートやふり返しシートは、どの生徒も丁寧に記入していることがわかる。「聴きあうこと」を大事にする「一巡法」、ファシリテーターを立てて意見交流を行う「一巡法レベルアップバージョン」、そして最終的には「全員がプレゼンテーションを行う」というところまで、生徒とのやり取りを大切にしながら進めてきてみて、生徒一人ひとりをよくみること、理解しようとすることの重要性を再認識することになった。このことは、授業者からも繰り返し語られている。

## 5. 授業者との対話によるふり返し

筆者が問いを立てて授業者にインタビューする形で授業づくりのふり返しを行った。授業者の語りは、筆者が立てた問いへの応答から、授業者の思いに広がっている。

### 5-①

(筆者の問い) グループワークが苦手な生徒が存在していることに配慮して、少しずつ段階を追う取り組みを行ったが、取り組んでみてどう総括するか。

(授業者) 段階を追うごとに、グループワークの行い方が自然に身についていると感じている。段階を追って丁寧に進める中で生徒をよく観察するようになった。1時間の中で取り組む分量も改めて見直すことができた。ワークシートの取り組みひとつとっても個々で進度が違う。終わった生徒からワークシートを預かり、「自分で考えて自習」という指示を出すと、各々が考えて取り組むことに驚いた。今まで、1時間の授業のすべてをギュッと管理していたことに気がついた。もっと一人ひとりの生徒の力に依拠して、それぞれのやり方を尊重してもよいのではないかと考えるようになった。

### 5-②

(筆者の問い) クラスで作成された座席表を活用して、偶発的なグループを作ったが、概ねよく取り組んでいたと考える。どう思われるか。

(授業者) 最初の頃に MI のデータを基にして、バランスを考えたことで、どのグループもスムーズにグループワークをスタートできたのではないかと。段階を追って練習していく中で、安心してグループワークに取り組むことができたのではないと思う。「授業の中での取り組み」というように限定されているため、日頃の人間関係の影響が少なく、授業の内容を深めることに集中できたとみている。

### 5-③

(筆者の問い) 評価はフィードバックの中で行ってきたが、評定への反映が今後の課題となると考える。どう思われるか。

(授業者) 評定への反映が課題であることは同感である。評定は大学進学に影響することもあり、非常にシビアな問題である。調べ学習のレポートやプレゼンテーションをどう反映させるか、今後の大きな課題だと考えている。

### 5-④

(筆者の問い) 今後の授業への活かし方などで考えていること、その他何かあればお話していただきたい。

(授業者) これまで、一斉授業の中でも生徒との双方向を意識しながら授業を行ってはきたが、グループワークに取り組んでみて、もう少しカジュアルに、授業の随所に取り入れていける可能性があると思った。最初は MI を取り入れたグループからスタートしてみるのがいいと考えている。

### 5-⑤

(筆者の問い) 最後に、今回取り組んでみて良かったと思う点と課題を教えてください。

(授業者) 今回、授業づくりを行う中で、生徒一人ひとりをよく見るようになった。授業がうまくいかないとき、「生徒のせい」にすることも、逆に「自分のやり方が悪い」と思うのも違って、いろいろな生徒が存在しているのだから、やり方を工夫していけばよいと考えるようになった。課題はやはり評定への反

映のさせ方である。また、忙しい日常の中で、ちょっとした工夫のできる授業改善を考えていきたい。

## 6. おわりに

「生徒が主体的・対話的に深く学ぶこと」を追求して、教育方法を提案させていただきながら、授業者と共に授業づくりを行ってきた。同校はひとクラス 35 人である。気候や行事などの影響を受けて、教室にはその時々で違う空気が流れているが、全体的に生徒は落ち着いて授業を受けている。今回、「教育方法について説明する」という役割をもって生徒の前に立ってみた。筆者は小・中・高校において 17 年間の教職を経験しているが、自然な感じで質問をする生徒がいたり、時には授業の本筋からは外れた発言が飛び出したりすることもある中、全体を掌握して授業を成立させていくというだけでも結構なエネルギーが必要であるということに再認識することになった。一斉授業において、授業者が授業を進めることにかなりのエネルギーを割く中で、一斉に授業を受けている状態からだけでは、一人ひとりの状態や課題は見えにくいかもしれない。今回の授業づくりの試みを通して、授業者が「教室にはさまざまな生徒が存在していることを再認識した」と繰り返し語っているように、グループワークを行うと、生徒の発言や様子がよく見えてくることを筆者も改めて実感した。

一斉授業においては、コントロールしなくてはならない場合も多々ある生徒の発言であるが、グループワークの中ではコントロールする必要が少なくなり、授業者が生徒の間を自由に動き回れることで、生徒の声に耳を傾けながら、必要な援助をすることが可能になる。生徒のふり返りシートの記述からは、積極的に参加している様子や、意見交流をすることで考えが深まっている様子がうかがえ、「グループワークを取り入れることは、生徒が主体的・対話的に深く学んでいくことにおいて有効である」ということができると思う。

グループワークを取り入れるにあたっては、グループワークを行うことや他の人と話すことに苦手意識をもつ生徒の存在を配慮する上からも、段階を踏んで丁寧に進めていく必要があることを再認識した。今回は授業対象者が中学 1 年生であったため、さらに丁寧に取り組むことを授業者と共に心がけた。グループワークを進める上で、「一巡法」や「一巡法レベルアップバージョン」は有効な方法であったと考えている。

本研究におけるグループワークは、授業者の授業内容の流れの中で設定したものの、佐藤（2012）の言う「ジャンプの課題」のような特別な位置づけとしての要素があったと認識している。授業者が「忙しい日常の中で、ちょっとした工夫のできる授業改善を考えていきたい。」と語っているように、今後の課題として、通常の授業の流れの中で、もう少しカジュアルな取り組みを追求することが挙げられる。

### 参考文献

遠藤 裕子（2018）学生の主体的な学びのために—Multiple Intelligences 理論、Universal Design for Learning を活用した授業の試み— 2018 年度法政大学教職課程年報 Vol.17（pp.18-pp.23）

佐藤 学（2012）学校を改革する—学びの共同体の構想と実践— 岩波書店

### 謝辞

1 年間、共に研究を進めてくださった法政大学中学高等学校の石川秀和先生に感謝いたします。継続した授業コンサルテーションというかたちでの共同研究は貴重であったと思っております。また、今回の共同研究に理解を示し、協力してくださった同校、クラスに入ることを受け入れてくださった 1 学年の先生方、特に担任の先生方に感謝いたします。そして何より法政大学中学校 1 学年生徒の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんの授業に伺うのがとてもうれしく、皆さんの学ぶ様子から、たくさんのことを勉強させていただきました。

## 資料

### 1. ラーニングピラミッド

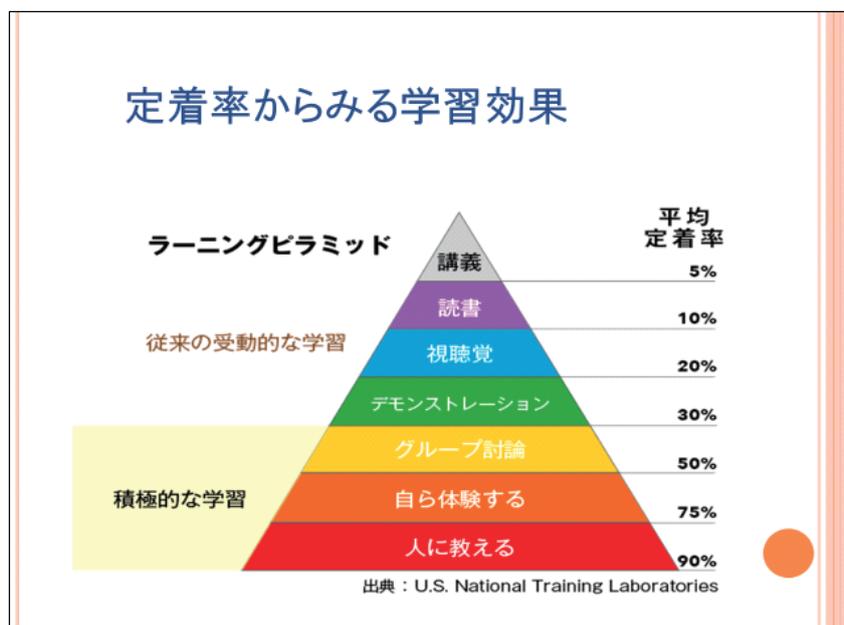


図1 定着率からみる学習効果 Learning Pyramid

### 2. 一巡法

グループワークでの傾聴をわかりやすく説明し、グループワークが苦手な生徒も安心して体験できるようにするための方法として、筆者が名付けた。「話し手が一巡する。聞き手は口をはさまずに、話し手の話をすっきり聴き取る。」というように進める。資料7に「一巡法」説明用資料を掲載した。

### 3. カクテルパーティ効果 (cocktail party effect)

自分に必要な事柄だけを選択して聞き取ったり、見たりする脳の働きのこと。カクテルパーティのような騒音の中で、会話をする相手の声だけを判別できるような選別能力をいう。授業の中では「人間の脳は、聴く気にならないと聴くことはできないようになっている」ということを説明するために用いた。

### 4. 一巡法レベルアップバージョン

資料2の「一巡法」を基に、筆者が考案したグループワークの方法である。口をはさまずに傾聴する「一巡法」から進んで、ファシリテーターを立てて、意見交流を行う。意見を述べるときには、相手の話を遮ることなくすっきり聴き取ってから「わたしメッセージ (I message)」や「天使言葉」を使い、相手の気持ちに配慮して意見を述べることを留意点としている。さらに、グループ内での意見交流が成立したら、全体での交流としてプレゼンテーションに発展させるため、プレゼンテーションのコツを提示する。資料8、9に「一巡法レベルアップバージョン」説明用資料を掲載した。

### 5. 1学期ふり返りアンケート記述まとめ

紙幅の都合で4クラス分(140人分)のうち、ひとクラス分のみ掲載する。

#### 5-1 「よかった」という感想

- ①一人ひとりの意見がしっかり聞けて、いろいろ意見があるんだなと感じました。
- ②一巡法により、考えたことをあまり発表しない私でも、班の人と共有することができて、良かったです。
- ③グループの人達が、話をよく聞いてくれたり、誘導してくれたりしたので、グループワークがやりやすかった。

- ④自分の意見を相手に伝えることはできたが、ごちゃごちゃしてしまって、ちゃんとまとめて伝えることができなかつたけれど、グループワークを何回かやると、だんだん意見をまとめて言えるようになった。
- ⑤全員が発表するので、いろいろな意見がでたが、どの意見も認め合うことができたので、とてもいい話し合いになったと思う。
- ⑥グループの人は意見をよく聞いてくれた。
- ⑦グループの中でも考え方が違う人がいた。その人の意見を聞けるので、グループワークはいいと思った。
- ⑧他の人の意見を聴けてよかった。
- ⑨自分とは違う意見も深く考えることができた。また、自分の意見もきちんと相手に伝わったと思う。
- ⑩自分の意見をしっかり言えたり、他の人の意見も聴けたので良かった。
- ⑪自分が発言した際に、みんな何も言わずにきいてくれて、言いやすかった。
- ⑫ある物事について、1人で考えこむより、複数の人の意見を取り入れて考えると、また違った見方ができるようになるので、とてもいいと思った。また、私は普段積極的に発言する方ではないが、授業ほど大人数の場ではなかつたので、意見をいいやすかった。
- ⑬グループの人の意見をしっかりと聴くことができたので良かった。
- ⑭みんなの意見からまとめるのが、とてもやりやすかった。自分の意見とみんなの意見との相違点がわかりやすかった。
- ⑮みんなちゃんと自分の話を聴いてくれて、話しやすかった。話し合いがスムーズに進んでよかった。
- ⑯まわりの人がしっかりと聞いてくれたので、話しやすかった。また、自分の意見と違う意見ができておもしろいと思った。
- ⑰みんなが意見をしっかりと聞いて、それに対する意見をしっかりと言ってくれたのでよかった。
- ⑱他のみんなと意見が違うので、聞いていて楽しかった。
- ⑲普通に話し合いをすると、個人で勝手にしゃべりだし、話し合いが進まないことが多いが、一巡法では他の人の意見をしっかりと聞こうとするため、きちんと手を挙げて発言することが出来、比較的話し合いが上手く進むと思います。
- ⑳友達が意見を言っている途中に口をはさむことができないため、しっかり言いたいことが伝わっていたことが、すごいと思った。
- ㉑結論は同じでも、結論に至るまでの経緯や理由は異なるため、他人の意見を聞くのはとても大事だと思った。
- ㉒聴くだけで、相手の考えに対する意見を言わないというのは、しゃべるのが苦手な人でも、安心してしゃべれるので、とてもいい方法だと思った。クラスでの話し合いでも活かしていきたい。
- ㉓一巡法を意識してグループワークを行って、今まで少し人の話をしっかりと聴けていないところがあったと思った。しかし、今回は一巡法を意識していたので、人の話は割とよく聴けていた。話すのが苦手な人の話も、最後まで聴いた。
- ㉔自分とは違う意見や考え方が聞けて、より理解が深まりました。
- ㉕一人ひとりの意見がちゃんと聞けるので、良い方法だと思う。普段、意見を言わない人の意見が聞けたので、その人がどういう考えをもっているかがわかった。
- ㉖相手の意見もきちんと聴かないとグループワークが成り立たないことが分かった。相手の意見はしっかりと聴けた。
- ㉗一人ひとりの意見をしっかりと理解できた。人の意見を聴くと自分の意見が深まるからいいと思った。
- ㉘一人ひとりの考え方が分かるやり方だったので、とてもやりやすかった。
- ㉙自分以外の考えがたくさん分かった。みんながちゃんと聞いてくれたので、発言しやすかった。
- ㉚人の意見が聞けて分かりやすかった。
- ㉛発言しても受け止めてくれて、様々な人の意見がきけたのでよかった。

## 5-2「よかった」と「よくない」が混ざった感想

- ①一巡法は他の人の意見に対して賛・否の意見が言えないから、あまり話が盛り上がらなかつたけれど、

その方がむしろ必ず全員の意見を聞くことができ、時間もかからず有効だった。

- ②みんなよく聞いてくれてはいたが、逆に1人に注目され、話すのが得意ではない私は、緊張してしまっただ。聞くのはまわりが静かなのでやりやすかったし、メモも取りやすかった。「話す」のは少しやりにくかったけど、「聴く」のは、やりやすかった。

### 5-3 「よくない」という感想

- ① 他の人が言った意見に対して、意見できないことがもどかしかった。

### 5-4 「改善したい」と思うこと

- ①自分の意見を言うとき、どうしても早口になったり、声が小さくなったりしてしまったので、改善したいです。
- ②相手の意見をきくときは、何か、その意見についてのことを押さえるのが難しく感じた。
- ③他の人が意見を言っているときに、自分の意見を言ってしまうがちなところを、気をつけたい。

## 6. 2 学期ふり返りアンケート記述まとめ

紙幅の都合で4クラス分(140人分)のうち、ひとクラス分のみ掲載する。

### 6-1 一巡法レベルアップバージョンについて(ファシリテーターを立てて意見交流を行う)

- ①初めて行ったけど、慣れていけば、すぐに班でまとめられると思いました。
- ②班の人たちの意見を聞くことができ良かった。また自分の意見を言うときも話しやすかった。他の人の意見も聞いてみたいと思いました。
- ③人の意見に対しての意見や疑問があまりでなかった。でも、初めてにしては、とてもスムーズに進んで、いろいろな意見も出てよかった。
- ④この前の一巡法(初歩)では、共感も何も言えなかったが、今回は「たしかに～」などの意見が出たので、話し合いが盛り上がった。
- ⑤コーディネーター(ファシリテーター)をみんなやった方がいいと思う。
- ⑥話し合いはスムーズに行えた。
- ⑦人の意見に対して意見できたのでよかった。でも、意見がなかったときに、話が止まってしまった。
- ⑧他人の意見を聞き、質問して、スムーズに進められて良かった。
- ⑨前の一巡法より難しかった。「一人のリーダーをはじめ、意見をまとめて、みんなに発表する」というところまで進んでいくのも難しいと感じた。
- ⑩今までの一巡法は、他人の意見に対して、賛成・反対・質問などが言えなかったが、今回は言えたので、他の人の意見により理解が深まったと思う。
- ⑪「意見」や「質問」が言えるようになったことで、相手の意見をより理解できたので良かったです。
- ⑫みんながちゃんと話し合いに協力していて、一人一人意見を言えてよかった。
- ⑬みんなの意見を上手くまとめられるようになりたいと思った。それぞれ違った意見があって面白かった。
- ⑭反論を少ししてしまった。
- ⑮みんなの意見をまとめることで、よりよい意見がでた。長い時間が必要だと思った。
- ⑯今まで通り、一巡法としては、全員意見を言えて、聞けて、共有できていたと思う。しかし、それぞれの意見が違ふとき、全体に共有するメモを誰の意見で出せばいいのか。全員の意見をまとめるのが大変だった。
- ⑰コーディネーターに仕事がかたまりすぎだと思った。
- ⑱グループで行ったとき、質問がでなかった。
- ⑲「全体での発表」をもっと多くやって、他のグループの意見を聞きたかった。
- ⑳全員が意見を発表できたし、ちゃんと意見を聞いてから質問したりすることができて良かったです。いろんな意見があるんだなと思ったし、お互いに学べたので、グループワークの時間をもっと増やしていただきたいです。

- ②① レベルアップして、やっぱり人の考えを否定する人がいた。だから改善していくべきだと思った。
- ②② 自分の意見や考えをもち、班の人と共有できてよかった。また、班の人の意見や考えを聴けてよかった。
- ②③ レベルアップした一巡法をやってみて、話し合いがスムーズに進んだと思った。4人それぞれの意見が聞けたので、とてもいい話し合いになったと思う。
- ②④ 急だったので、上手くまとめられなかった所があったかもしれない。発表するときに、少し恥ずかしくてモジモジした所があった。ハキハキと話す。班での話し合いは、協力し合って進めた。
- ②⑤ 一人ひとり違う意見が出て、「そういう意見があるんだ」と思いました。あんまり知らない人の知られざる能力を知ることができてよかった。
- ②⑥ コーディネーター（仕切る人）がいることで、話し合いがスムーズにいったと思う。少し口をはさんだ人はいたけど、基本上手くいったと思う。少し声が小さくて聞き直すことがあった。（早口だったりして）
- ②⑦ 意見と質問をしっかり言えてよかった。全体で発表した後に、質問も出てよかった。自分が思っていたことと違った意見が出たけど、なるほどと思った。
- ②⑧ 人に質問したりして、話題を深められ、より面白い話ができたとと思う。
- ②⑨ 5人全員一巡できたが、まとめるまでにはいかなかった。指揮役がいたことによって上手に進められた。
- ③⑩ みんなの意見を聞いてよかった。ちゃんと聞いてくれたので、言いやすかった。
- ③⑪ 一巡法で、みんなの意見を知ることができて面白かったが、自分があまり質問できなかった。
- ③⑫ 一巡法がレベルアップして、自分の意見が言えたので、お互いの意見がさらにきけて良かったと思った。しかし、みんなの意見を1コの意見にまとめるのは難しいと感じた。
- ③⑬ 初めてファシリテーターをやって、みんな自分勝手に意見を言うのではなく指された人が発言することができていたので良かったと思いました。
- ③⑭ 私の班では意見が分かれたが、お互いの考えを言い合うことができた。
- ③⑮ 人によって意見が違ったりしたときに、話し合いながら、相違点を見つけ、まとめられていたので、良かったと思いました。
- ③⑯ 一人ひとりの意見がしっかりと聞けたので良かったです。また、みんなの意見もよくまとめられたと思います。
- ③⑰ 班のみんなですmoothに話し合いをすることができて良かったです。だれも、意見を否定したりしてなくて、良い話し合いだった。
- ③⑱ 今日はいつもと違う人がまとめていたので良かったと思う。
- ③⑲ 議題から考えることが同じなので、意見を出すのが難しい。もう少し議題をわかりやすくしてほしい。
- ④⑰ うまくできたと 생각합니다。楽しかったです。
- ④⑱ 一人ひとりの意見を聞いて、いろいろな考え方があったので良かったと思います。
- ④⑲ 私たちの班では、一人ひとりの意見をくわしく聞いたため、時間が長くかかりましたが、ほとんどの人の意見が一致し、そこに新しい意見がみつかったりと楽しく意見交換できて楽しかったです。グループワークの時間をもっと増やしてほしいです。
- ④⑳ みんな大体同じような意見が出て「レベルアップ」した一巡法があまり重視されずに、スムーズに進みすぎたところがあったので、もう少し意見が分かると面白いと思った。
- ④㉑ ちゃんとそれぞれが意見を言い、まわりも聞いていたので、いいと思った。だいたい同じ意見のはずなのに、それぞれ少しずつ違って、それを理解しあえて良かったです。
- ④㉒ 初めてファシリテーターをやって、人任せにできない緊張感、責任感、難しさを知ることができました。
- ④㉓ 違う意見の2人が、意見をぶつけ合っていたところが良かった。
- ④㉔ みんなで意見を交換したら、結構似ていた。
- ④㉕ 毎回、違う人とグループになるので、新しい状態でグループワークを行って、やりやすかったです。
- ④㉖ 自分たちの意見をまとめるのが難しかった。
- ④㉗ グループワークをきいていて、他の意見もあつたり、「それもそうだな」と分かたりして、よかった。
- ④㉘ 初めてファシリテーターをして、最終的に、みんなの意見をまとめるのが難しかった。自分には思い

つかない「たまたまいた」という意見などあっていいと思った。

## 6-2 プレゼンテーションについて

- ①楽しかった。いろんな意見があった。
- ②教科書とかを使って説明していて、よかったと思いました。
- ③プレゼンのときに、自分たちの班での話し合いをまとめて言うために、班での話し合いをまとめておいたほうがよかったと思いました。3番と4番の意見をまとめて言えている班があって、良いと思いました。
- ④意見をまとめるまではできなかったが、プレゼンテーションの時は簡潔に発表できた。他の班の意見を聞いて、同じ考えの人もいたが、違う考えの人もいた。どの意見も納得できた。反対意見も出てよかった。
- ⑤班全員で発表した方がよいのでは？と思う。今度は自分がプレゼンしてみたい。
- ⑥〇〇さんの発表が、とてもまとまっていてよかった。逆にぐだぐだの人もいた。
- ⑦同じ物をみているのに、人によって感じ方が違っていて、案がたくさん出た。途中まで似ていても、最後が全然違う人もいた。納得する意見も多かった。
- ⑧今回、自分がファシリテーターを務めたが、難しかった。問題の意味が難しかったので、共有することができてよかった。
- ⑨図を見ながら説明しているのは分かりやすく良かった。
- ⑩言いたいことを、はっきりと明確にした方が伝わりやすい。
- ⑪みんながそれぞれのグループの意見をしっかり聞いていてよかった。「～ページをみてください」みたいに、聞き手によびかけているところがよかった。
- ⑫教科書を使って発表している人がいて、すごいと思った。
- ⑬意見に対して反対意見（ぼくは～と思う）というものもあっていいと思った。
- ⑭班の中では、みんな意見が同じだったけど、クラスになるといろいろなとらえ方があって、面白かったです。
- ⑮資料を使って説明するのは、わかりやすかった。
- ⑯出た意見があまり分かれなと言ったけど、少し分かれるところもあった。
- ⑰難しい問題だったけど、みんなの意見をきいて、少しだが分かったような気がした。そのことから、他の人の意見をきくのは大事なことだと改めて思った。この問題にとっても興味が湧いた。
- ⑱発表している人は、みんな前を向いてしゃべっていた。わたしも、これからクラスの前でしゃべるときは、下を向かずにしゃべれるようにしたい！！
- ⑲ふざけてプレゼンしているように見えたので、やめてほしいと思った。
- ⑳目を見て、ちゃんとスピーチ（プレゼン）ができていたので、良かったです。
- ㉑他の班の意見を聞くと、とても納得する意見があった。
- ㉒グループで意見をまとめて発表していくのが面白いと思った。
- ㉓同じ内容でも、違った方法で説明をしているので面白かった。
- ㉔それぞれ違う意見なので、聞けてよかった。

## 7. 「一巡法」説明用資料

法政大学中学校 1年生社会科

2019年6月  
作成：遠藤 裕子



### グループワークで 一巡法(いちじゅんほう)を使ってみます。

**目標：**

- グループ内の、他の人の意見をしっかりと聞き取る。
- 安全・安全にグループワークを行う

**やり方：**

- ひとりずつ、1～2分で「自分の考え」を話します。
- 聴く人は、黙って、話を聴きます。
- 聴くだけで、それに対しての意見は言いません。
- 必要なことは、メモを取ります。

**気をつけたいこと**

- 話す人が、安心して話せるように、耳と目と心を傾けましょう。
- グループの中には、「話すこと」が苦手な人がいるかもしれません。どうしても話せない場合は、それも認め合えるようにしましょう。

## 8. 「プレゼンテーションのコツ」説明用資料

法政大学中学校1年生 社会科

2019年12月 作成：遠藤 裕子

東京ウオーキングの発表に生かしてください！



### よりよいプレゼンテーションを行うために 大事なこと

1. 「伝えたいこと」と「伝えたい気持ち」  
“これ”があることが前提です。
2. しっかり準備  
準備が十分にできていると、自信をもってプレゼン  
できます。
3. よい聴き手  
一巡法で学んだ「聴く」を生かしてください。

**☆ちよっとしたコツ**

- いつもより、ゆっくり話すように心がける。
- 大きめの声で話すように心がける。
- 顔を上げる。※声が届きやすくなります。

2019年11月  
作成：遠藤 裕子

法政中学校1年生 社会科



## 一巡法 レベルアップします！

どのようにレベルアップするのですか？

1. ファシリテーターを立てて、話し合いを進めます。  
※誰もが、ファシリテーターができてきるようになります。
2. プレゼンテーションを行います。  
※グループの意見をまとめて発表できるようにする。

ファシリテーターの役割

グループワークがうまくいくように、進行や調整を行う。  
中立の立場をとり、自分の意見は言わない。

ファシリテーターの行い方

1. 最初に発言する人を決める。  
※指名してもいいし、立候補してもらってもOK。
2. 発言する人が言い終わったら、  
「質問はありませんか？」「意見はありませんか？」

目標：

1. 一巡法バージョンの良さを生かして、グループワークをレベルアップする。
2. グループの意見を全体で共有する。

やり方：

1. ファシリテーターのリードで、グループ内で意見交流を行う。
2. グループごとに発表して、全体で意見を交流する。※プレゼンテーション

意見をまとめる：

グループでひとつの意見にまとめる必要はありません。  
対照的な意見があったら、それはそのまま並べて、記録します。

プレゼンテーション：

1. 発表する  
ひとりが代表で発表してもいいし、何人かで分担してもいいし、全員で発表してもいいです。グループで相談して決めてください。持ち時間は3分程度とします。

2. 発表を始める 終わる 例  
「これから、○グループの発表を始めます」

「これで、○グループの発表を終わります」

3. 発表を聴く
  - ・前に出て、発表します。
  - ・安心・安全に発表できるように、一巡法でのグループワークと同様、黙って耳を傾けましょう。
  - ・発表が終わったら、拍手をしましょう。

気をつけたいこと：

- 安心・安全に実施するために、
- ①ファシリテーターの指示で、発言しましょう。
  - ②質問や意見は、message で述べましょう。
  - ③「天使言葉」を使いましょう。